

島根県立大学北東アジア地域研究（NEAR）センター

Institute for North East Asian Research

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

TEL : 0855-24-2375 E-Mail : near-c@u-shimane.ac.jp

URL : <http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/>

(NEAR センターで検索ください)

NEAR センターは、北東アジア研究の拠点を築くのみならず、
大学院教育・地域との連携を積極的に推し進めています。

NEARセンターの活動のひとこま

NIHU シンポ「北東アジア：胚胎期の諸相」



モンゴル科学アカデミーでの国際会議



哈爾濱現地調査@哈爾濱師範大学



2017 年度第 1 回市民研究員全体会



□主な活動内容(平成 30(2018)年度)

1. 情報の収集と発信

○情報の収集・提供

センター・ホームページ : <http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/>
(NEAR センターで検索ください)

○情報誌の発行

ニューズレター『NEAR News』(年 2 回刊行)

センター機関誌『北東アジア研究』(年 1 回刊行・査読付き学術雑誌)

いずれもセンターサイトより閲覧・ダウンロード可能。サイト内の「成果物」を参照ください。

○研究成果等の出版

《書籍》

- ・宇野重昭、増田祐司編『北東アジア地域研究序説』2000年3月、国際書院。
- ・増田祐司編『21世紀の北東アジアと世界』2001年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、増田祐司編『21世紀北東アジアの地域発展』2002年3月、日本評論社。
- ・宇野重昭、増田祐司編『北東アジア世界の形成と展開』2002年3月、日本評論社。
- ・宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』2002年6月、国際書院。
- ・宇野重昭編『北東アジアにおける中国と日本』2003年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、勝村哲也、今岡日出紀編『海洋資源開発とオーシャン・ガバナンス』2004年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、鹿錫俊編『中国における共同体の再編と内発的自治の試み』2005年3月、国際書院。
- ・島根県立大学西周研究会編『西周と日本の近代』2005年3月、ペリかん社。
- ・宇野重昭、別枝行夫、福原裕二編『日本・中国からみた朝鮮半島問題』2007年3月、国際書院。
- ・デービッド・レーン著、溝端佐登史・林裕明・小西豊著訳『国家社会主義の興亡—体制転換の政治経済学—』2007年7月、明石書店。
- ・宇野重昭、唐燕霞編『転機に立つ日中関係とアメリカ』2008年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、小林博編『北東アジア地域協力の可能性』2009年3月、国際書院。
- ・飯田泰三、李曉東編『転形期における中国と日本：その苦悩と展望』2012年10月、国際書院。
- ・金日宇・文素然著、井上治監訳、石田徹・木下順子訳『韓国・済州島と遊牧騎馬文化』2015年1月、明石書店。
- ・飯田泰三編『北東アジアの地域交流——古代から現代、そして未来へ——』2015年6月、国際書院。
- ・宇野重昭、江口伸吾、李曉東編『中国式発展の独自性と普遍性—「中国模式」の提起をめぐって—』2016年3月、国際書院。
- ・飯田泰三監修、井上厚史・石田徹訳、朴忠錫『韓国政治思想史』2016年9月、法政大学出版社。
- ・佐藤士、江口伸吾編『変動期の国際秩序とグローバル・アクター中国—外交・内政・歴史—』2018年3月、国際書院。

【北東アジア学創成シリーズ】

- ・宇野重昭『北東アジア学創成シリーズ第1巻・北東アジア学への道』2012年11月、国際書院。
- ・福原裕二『北東アジア学創成シリーズ第2巻・北東アジアと朝鮮半島研究』2015年7月、国際書院。

院。

以下続刊。全7巻。

《ワーキングペーパー・シンポジウム報告書》(過去3年間)

- ・井上厚史編著『北東アジア協力の新課題』2014年3月、島根県立大学。
- ・井上厚史編著『近代東アジアにおける社会民主主義の展開』報告書』2016年3月、NEAR センター。
- ・福原裕二編『北東アジア諸国間の協力可能性とモンゴル国の役割』2018年3月。

《シンポジウムの開催》(過去3年間)

- ・「国際秩序をめぐるグローバル・アクター中国の『学習』と『実践』」(2016年3月)
- ・「北東アジア地域研究の挑戦」(2016年5月：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、人間文化研究機構との共催)
- ・「北東アジア諸国間の協力可能性とモンゴル国の役割」(2017年9月：モンゴル科学アカデミー国際関係研究所、朝鮮民主主義人民共和国社会科学院、人間文化研究機構との共催)

2. 調査・研究事業

◎人間文化研究機構(NIHU)・北東アジア地域研究推進事業

NEAR センターは人間文化研究機構が進める北東アジア地域研究推進事業の研究拠点の1つに選ばれ、平成28(2016)年度より「北東アジアにおける近代的空間の形成とその影響」というテーマで国際日本文化研究センターと連携しながら、空間としての北東アジアを形成した複合的統治システムの形成、清朝・ロシア帝国・大日本帝国という3つの重層パワーの歴史的関係性、そしてこの地域のコンタクト・ゾーンにおける力学や流動性を明らかにすべく共同研究を進めていきます。

《シンポジウムの開催》

<2017年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」第二回国際シンポジウム 2017「北東アジア-胎動期の諸相」(東北師範大学(中国・長春)) 9月19日-9月20日

<2016年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」第一回国際シンポジウム 2016「北東アジア：胎動期の諸相」(島根県立大学) 11月19日-11月20日
- ロシア連邦タタールスタン共和国科学アカデミー-Sh.マルジャニ記念歴史研究所・島根県立大学北東アジア地域研究センター共催・国際会議(タタールスタン共和国科学アカデミー-Sh.マルジャニ記念歴史研究所) 8月6日

○重点プロジェクト

《北東アジア学創成プロジェクト》

「北東アジア学」の創成を目指し、その中核組織として「北東アジア研究会」を組織しています(年6回程度開催)。

《日韓・日朝交流史研究プロジェクト》

日本と朝鮮半島を中心とする北東アジア地域の交流促進を目指し、学術的な立場から幅広く日

韓・日朝関係の歴史とそれを巡る国際関係を分析することを目的に「日韓・日朝交流史研究会」を組織しています（年4回程度開催）。

《北東アジア地域研究》

「北東アジア学」の創成の課題をより豊かな視点からアプローチすることができるように、各研究員がそれぞれの専門・人脈により研究会を立ち上げ、内部・外部資金を獲得し、個性ある研究を遂行しています。

○研究ユニット

NEAR センターでは平成 25 (2013) 年度より、共同研究プロジェクトを推進する母体として「歴史・文化・思想」部門、「政治・経済・国際関係」部門、「北東アジア超域」部門の3部門からなる「研究ユニット」を組織し、より有機的な研究体制づくりに努めています。

○その他の研究活動

《超域アジア研究・「北東アジア学創成シリーズ」の刊行》

NEAR センターを中心に大学院との連携を図りつつ、全国的にもユニークな「北東アジア超域」専攻を有する大学院教育の実質化を側面から支援すべく、各研究員が「超域」を志向した研究に取り組んでいます。NEAR センターでは、多様な史的展開、多角的なヒト・モノ・文化が接触・交流する中で形成されてきた北東アジア世界を、地域の国際化・グローバル化がさらに進行する未来を眺望しながら、人文科学・社会科学の個別学問諸分野の域を超えて学際的に追究する、二重の意味での「超域」研究を展開し、その成果を『北東アジア学創成シリーズ』として刊行しています。

《西周研究》

幕末から明治にかけ東西の思想を学び日本の近代化を推進した、津和野出身の西周の研究を通じて、新たな学術的展開を図るべく、研究会が運営されています。その成果は、島根県立大学西周研究会編『西周と日本の近代』（ぺりかん社、2005年）として刊行されました。また毎年秋には、津和野町で市民も参加できるシンポジウムやセミナーなどを開催しています。

3. 大学院との連携

○NEAR センター准研究員制度

この制度は、大学院博士後期課程に在籍する大学院生の中で、博士論文の執筆や北東アジア学創成の一助につながる優れた研究計画を作成した者を准研究員に任命し、センターを挙げてその研究活動を支援・指導する枠組みです。

准研究員に任命された大学院生は、三年間にわたって大学からの研究資金が助成され、この助成制度を活用することで、大学院における研究指導科目「特別研究活動」の単位取得に役立てることもできる制度です。

4. 地域社会との連携

○NEAR センター市民研究員制度

NEAR センター市民研究員制度の発端は、本学が大学発足の早い段階から進めてきた大学院入門レベルのいわゆる「NEAR カレッジ」という講座の中で、既に実社会で多くの経験を持たれている優秀な方々が多数おられることに感銘を受けたことにあります。そして、平成 18 (2006) 年度に本学大学院が文部科学省「“魅力ある大学院教育” イニシアティブ」の助成対象校として選ばれたことを機に創設しました。具体的には、市民の方々の中から、大学院生や教員と共に、広い意味での北東アジア研究に関し共同研究を進めていただくことで、キャンパスの外の発想を大学に取り入れ、大学院教育と研究を刺激していただくという、全国的にもユニークな制度です。

○NEAR センター市民研究員制度の具体的取り組み

《市民研究員全体会・市民研究員研究会》

市民研究員全体会ならびに市民研究員研究会は、市民研究員を中心に、NEAR センター研究員、大学院生が一堂に介し、制度の運営・活動の構想やアイデアを出し合う場、またそれぞれの研究成果を持ち寄り、発表・検討する場です。主に、グループ・リサーチ・サロンの構成や市民研究員の研究報告会、市民研究員一院生の共同研究報告会などを行います。

《市民研究員グループ・リサーチ・サロン》

市民研究員グループ・リサーチ・サロンは、市民研究員が主体となって複数の研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。市民研究員間のつながりと、NEAR 研究員・院生との有機的な連携が発揮され、創造性豊かな活動が展開されるものと期待し、2012 年度より制度の中核的活動となっています。

《市民研究員と大学院生との共同研究》

市民研究員制度の特徴ある取り組みとして、「市民研究員-大学院生との共同研究」が行われています。この共同研究は、大学院生が市民研究員及び教員との自発的な研究グループを組織し、実行可能な優れた研究計画を立案すれば、これに対してセンターが研究資金を助成する事業です。昨年度は、3 件の共同研究が採択されました。過去 2 年間の採択課題は、次の通りです。なお、研究資金の一部に浜田市から共同研究事業補助金の助成をいただいています。

<2016 年度>

- 「中国と日本の都市生活ごみの分別・収集・処理の比較について——蘇州市、広島市、浜田市を対象にして」(大学院生：王節節[北東アジア開発研究科博士前期課程 1 年]、市民研究員：滑純雄、指導教員：沖村理史教授)
- 「破壊と再興に見る内モンゴル・フレイ旗における仏教のあり方——復興に対する経済政策・文化政策と仏教復興の関与者(アクター)を中心として」(大学院生：格格日勒[北東アジア開発研究科博士後期課程 1 年]、市民研究員：岡崎秀紀、指導教員：井上治教授)
- 「多文化共生社会におけるメディアの役割——在日中国人向けエスニック・メディアとマスメディア及び地方メディアの相互作用の観点から」(大学院生：李萌[北東アジア開発研究科博士後期課程 1 年]、市民研究員：澁谷善明、指導教員：佐藤壮准教授)

<2017 年度>

- 「中国における移民社区の共棲・共生実態研究——煙台の韓国人社区を事例に」(大学院生：左曉晴[北東アジア開発研究科博士前期課程 1 年]、市民研究員：湯屋口初實、河野美里、指導教員：福原裕二教授)
- 「環境支払意思学により新退耕林政策を導入する可能性に関する研究——ホルチン砂地におけるフシン市を事例として」(大学院生：石楊[北東アジア開発研究科博士後期課程 1 年]、市民研究員：岡崎秀紀、指導教員：沖村理史教授)

- 「上海市及び浜田市の友好都市真如鎮におけるニーズ調査と浜田地域におけるインバウンド戦略について」（大学院生：田中幹人[北東アジア開発研究科博士後期課程 1 年]、市民研究員：湯屋口初實、大橋美津子、板東朋子、指導教員：井上治教授）

《報告書の刊行》

2008 年度には、市民研究員制度に関わる活動を取りまとめた、NEAR センター編『「NEAR センター市民研究員制度」2 年間の歩み 2006～2007』を刊行しました。2010 年度には、2008 年度から 2010 年度までの 3 か年の活動を取りまとめた、NEAR センター編『「NEAR センター市民研究員制度」活動報告書 2008～2010』を刊行しました。

5. データベースの構築

○韓国／朝鮮関係資料目録

- ・竹島／独島関係史・資料目録
- ・韓・日会談文書目録
- ・日韓関係（1952～74 年）文書目録—第 13 次公開分—

いずれもセンターサイトより閲覧・ダウンロードできます。サイト内のライブラリー（NEAR センター図書資料室所蔵資料）を参照ください。

○宇野家文書デジタルライブラリ (<http://near-archive.jp/>)

本デジタルライブラリは、島根県隠岐郡の別府で代々官司を務めていた宇野家に江戸時代から伝わってきた神道関係を中心とした古文書（和書）74 点の中からこれまで活字刊行されていない貴重書 31 点を「宇野家文書」として書誌情報を加えて全文画像を広く一般に公開するものです。なお、本デジタルライブラリ構築にあたっては、「島根県立大学平成 27 年度学術教育研究特別助成金（共同研究分）」・「島根県立大学平成 28 年度学術教育研究特別助成金（共同研究文）」の助成を受けました。

6. 外部資金の獲得

○センター研究員による外部資金の獲得状況（獲得年度順）

- ・李曉東研究員「中国格差社会における「つながり」の生成—基層社会の弱者に対する支援を手掛かりに」[科学研究費補助金・基盤研究(B)]
- ・石田徹研究員「前近代日朝関係における『訳官使』の基礎的研究」[学術研究助成基金助成金・基盤研究(C)]
- ・井上治研究員「18・19 世紀モンゴル語年代記の記述内容の変遷に関する研究」[科学研究費補助金・基盤研究(C)]
- ・江口伸吾研究員「現代中国の『協商民主』とガバナンスの近代化—権威主義体制の再構築をめぐる一」[科学研究費補助金・基盤研究(C)]

□センター研究員紹介

NEAR センター・センター長 (兼研究員) : 李 曉東 (LI Xiaodong)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部教授。博士 (政治学)。
専門は、近代日中関係史、近代中国政治思想史、中国地域研究。

NEAR センター・副センター長 (兼研究員) : 福原 裕二 (FUKUHARA Yuji)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部教授。博士 (学術)。
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究共同研究員。
専門は、国際関係史、朝鮮半島の地域研究。

NEAR センター・センター長補佐 (兼研究員) : 石田 徹 (ISHIDA Toru)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部准教授。博士 (政治学)。
専門は、日本政治史・日朝関係史。

NEAR センター研究員 (50 音順)

李 正吉 (LEE Jungkil)

人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員／島根県立大学北東アジア地域研究センター研究員。博士 (法学)。専門は、政治学、現代韓国政治、比較政治。

井上厚史 (INOUE Atsushi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部教授。
専門は、日本思想史、東アジアの儒学思想。

井上 治 (INOUE Osamu)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部教授。博士 (文学)。
早稲田大学中央ユーラシア歴史文化研究所招聘研究員。専門は、モンゴル史。

江口 伸吾 (EGUCHI Shingo)

島根県立大学副学長／大学院北東アジア開発研究科長／総合政策学部教授。博士 (政治学)。専門は、政治学、現代中国政治。

高 一 (KO I)

島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手 (韓国語担当)。博士 (法学)。
専門は、東アジア国際関係史、朝鮮現代史。

佐藤 壮 (SATO Takeshi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部准教授。
専門は、国際関係論、東アジア安全保障論、米国の対アジア太平洋政策。

豊田知世 (TOYOTA Tomoyo)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／総合政策学部准教授。博士 (学術)。
専門は、環境経済学、開発経済学。

濱田泰弘 (HAMADA Yasuhiro)

島根県立大学総合政策学部准教授。博士 (政治学)。
専門は、ドイツ政治思想史、ドイツ原子力法。

ムンフダライ (Möngkedalai)

島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手 (中国語担当)。博士 (学術)。
専門は、言語学、モンゴル語、アルタイ諸語、中国語。

山本健三 (YAMAMOTO Kenso)

島根県立大学総合政策学部准教授。博士 (学術)。

専門は、近代ロシア政治思想史、ロシア地域研究。

渡辺 圭 (WATANABE Kei)

島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手 (ロシア語担当)。博士 (文学)。

専門は、ロシア正教会史、ロシア宗教思想史。

NEAR センター名誉研究員 (50 音順)

飯田 泰三 (IIDA Taizo)

島根県立大学名誉教授。法政大学名誉教授。

宇野 重昭 (UNO Shigeaki)

島根県立大学名誉学長 (名誉教授)。成蹊大学名誉教授 (故人)。

ロセンター客員研究員紹介(2018 年 4 月 1 日現在)順不同

石源華 (SHI Yuanhua) 中国・復旦大学韓国・朝鮮センター所長

セルゲイ・I・クズネツォフ (Sergey I. Kuznetsov) ロシア・イルクーツク大学歴史学部教授

諏訪淳一郎 (SUWA Junichiro) 弘前大学国際教育センター准教授

鹿錫俊 (LU Xijun) 大東文化大学国際関係学部教授

唐燕霞 (TANG Yanxia) 愛知大学現代中国学部・大学院中国研究科教授

菅原光 (SUGAWARA Hikaru) 専修大学法学部教授

ライハンスレン アルタンザヤ (Lhaikhansuren Altanzaya) モンゴル・モンゴル国立教育
大学教授

オンドロナ (Unduruna) 中国・内モンゴル大学民族学・社会学学院准教授

ウスマノヴァ ラリサ (Usmanova Larisa) ロシア・カザン連邦大学社会学部助教授

于臣 (YU Chen) 横浜国立大学国際戦略推進機構准教授

趙曉紅 (ZHAO Xiaohong) 中国・浙江大学人文学院歴史系講師

李良姫 (LEE Yanghee) 兵庫大学現代ビジネス学部現代ビジネス科教授

金俊行 (KIM Jun Haeng) 関西学院大学非常勤講師

西野可奈 (NISHINO Kana) 東京工業大学国際室特任准教授

内田孝 (UCHIDA Takashi) 大阪大学日本語日本文化教育センター非常勤講師

金仙熙 (KIM Sunhee) 韓国・建国大学校アジアコンテンツ研究所前任研究員

張紹鐸 (ZHANG Shaoduo) 中国・上海外国語大学国際関係・外交事務研究院研究員

沢目健介 (SAWAME Kensuke) 成蹊大学客員研究員

張基善 (JANG Gisun) 東北大学大学院文学研究科専門研究員

朴昶建 (PARK Chang-Gun) 韓国・国民大学校グローバル人文地域大学日本学科助教授、
東アジア戦略研究所副所長

新井健一郎 (ARAI Kenichiro) 翻訳家

王鳳 (WANG Feng) 島根県立大学北東アジア地域研究センター客員研究員

柳小正 (LIU Xiaozheng) エイジウム研究所主任研究員

市川聖 (ICHIKAWA Takashi) ノースアジア大学明桜高等学校教諭

尹珍喜 (YOON Jin-Hee) 同志社大学社会学部教育文化学科准教授

平山龍水 (HIRAYAMA Tatsumi) 東京国際大学国際関係学部教授

古川祐貴 (FURUKAWA Yuki) 長崎県立対馬歴史民俗資料館学芸員

全榮 (Quan Rong) 中国・内モンゴル社会科学院歴史研究所研究員 (教授)